Project No.
15 | 交通

AIオンデマンド配車システム「TAKUZO」による定額乗り放題の乗合タクシー導入事業

TRY ANGLE EHIME
トライアングルエヒメ

採択事業者名 株式会社バイタルリード

コンソーシアム構成員 リージョナルデザイン株式会社｜東温自動車交通有限会社｜川上タクシー｜東温市産業建設部都市整備課

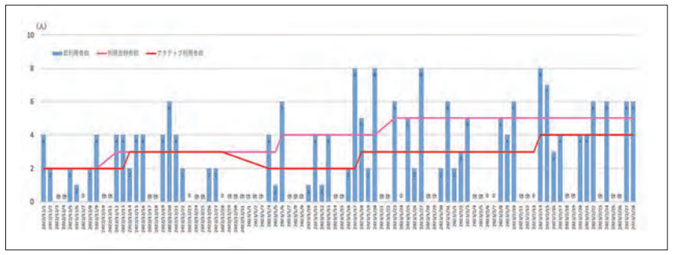
勉強会の実施概要

勉強会の目的	AIオンデマンド配車システムを用いた定額乗合タクシー「TAKUZO」の実証経過やそこで得られた知見・気づき等を愛媛県内の関係者間で共有し、今後の取組に活かす。
勉強会の当初のゴール想定と結果	愛媛県内において本取組がフィットする地域を精査し、令和5年度以降の新たな実装先を見定めることを想定していた。結果、愛媛県内のいくつかの自治体で本取組の目的にフィットしそうな地域があり、今後、関係者(主に行政と交通事業者)と具体的な協議を進めることとなった。
参加者	愛媛県内の4市町の関係者(行政・交通事業者)が勉強会に参加した。
協議アジェンダ	●東温市北方エリアにおける実験経過とそこで得られた知見、他地域の事例紹介 ●運行事業者や自治体の手ごたえ、気づき等 ●予約センター運営や利用促進活動等から得られた知見
協議による実装推進上の重要な決定事項/示唆	●短期間での実証実験では、メインターゲットである高齢者にサービス内容が十分浸透しない ●短期間でTAKUZO北方を利用したのは、元々バスやタクシーに乗り慣れている人 ●サブスクで利用を始めた人はかなりの頻度で利用し、活動も活性化している
その他補足事項など(開催頻度、規模など)	複数の関係者を集めた勉強会は1回のみ。その後、各関係者に個別に情報提供等を行った。

勉強会の実施状況

デジタル実装協議フォーマット

目指す「実装成果」の定義	移動に困る人が減り、地域のQOLが向上するとともに、利用者の活動が活性化する。交通事業者は既存アセットで売上が向上し、持続可能性が高まるとともに運転士の収入も増加する。行政の移動手段確保に係る財政支出が抑制される。
データに基づく協議ポイントの整理	〈主に移動利便性、QOL〉 ❶TAKUZOの利用で住民の外出が増え、活動が活性化するか ❷移動に困る人が一定ボリューム存在し、それをTAKUZOで救えるか 〈事業に係る経済性〉 ❸TAKUZOに取り組むためのリソース(運転士・車両等)を割けるか ❹TAKUZOに取り組むことで、既存リソースのままで従来より売上向上を見込めるか 〈住民の移動手段確保に係る経済性〉 ❺(現状サービスがある場合)従来より行政負担を減らせるか ❻移動に困る人を減らせるか
主なデータ項目	❶利用者アンケート、❷事前住民アンケート、❸運転士・車両の稼働状況)、❹TAKUZO事業の売上見込みとタクシー事業の売上減見込み、❺TAKUZO事業収支見込、現在の移動手段確保に係る行政負担額、❻事前住民アンケート
ガイドライン(含む具体例)	〈事業に係る経済性〉TAKUZOを運行しようとする時間帯の運転士・車両の稼働状況を精査し、交通事業者のリソースに余裕があるかを把握。更に事前住民アンケートでおおよその利用見込みを把握し、聞き取りも含めてTAKUZO事業の売上見込みとタクシー事業の売上減見込みを把握。 〈住民の移動手段確保に係る経済性〉行政が行っている移動手段確保に係る負担額を把握し、TAKUZO事業の収支見込との比較で、移動手段確保に係る効率性を比較。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	利用者の外出が増加し、活動が活性化した。タクシー事業者の意思決定のため、TAKUZO事業の売上とタクシー事業の売上減に係る見込みの精度向上が必要。タクシー事業者と行政の契約方法や金額について、双方win-winとなるポイントを探る必要あり(先行事例で検討中)。



実証期間中の利用状況等の推移

Copyright © EHIME Prefecture. All rights reserved.